

エントリーした理由 私たちは先輩方が、この project を立ち上げ、発表しているのを見て、来年は私たちが「種」の保存や、地域への普及といった、先輩方が掲げた目的を達成したいと思い、project を引き継ぎました。

皆さん、去年の熊野高校の project 発表はご存知でしょうか。  
先輩方は、地元の新聞で「稲成ナス」という伝統野菜を知りました。そして、西牟婁振興局の橋本さんを介して、栽培農家の方から種子を提供していただきました。

それでは、稲成ナスについて、少しおさらいをしたいと思います。

まず、稲成ナスとは、和歌山県田辺市稲成町荒光地区のオリジナル品種で100年以上前から種が守られ、栽培されています。

また、このナスは、丸ナスの一種で、巾着に似ていることから、巾着ナスとも呼ばれています。しかし、収穫量が少なく、樹勢が弱く、栽培方法が難しいので、梅への改植が進み、年々、栽培農家が減少しています。

ちなみに、荒光地区とは、この辺りです。

前回のおさらいはここまでにして、私たちのプロジェクトの内容に移りたいと思います。  
私たちは、去年の先輩方が掲げていた1.「種」の保存を目指す。2.地域への普及を目指す。3.新レシピの開発を目指すのうち、1の「種」の保存を目指すに重点を置き、プロジェクトを開始しました。

私たちは、去年の project で育てた稲成ナスから、種子を採取しました。

その後、種子を大きさ別に3種類に選別しました。種子を選別した理由は、私達が考えていた良い種子の条件は、種子が大きければ大きいほど十分な栄養を蓄え、よく発芽する力を持っていることだと思ったからです。

選別した種子の内、大種子と中種子を使い、本調査の前に、予備実験として、それぞれ72粒の播種を行いました。

その結果、大種子の発芽率は90%で、中種子は83.3%となり、この数字から、種子の選別は成功したと考えられます。

予備実験の結果を受け、本調査では、選別した種子の内、大種子、288粒を播種しました。

これが、播種後の気温、地温の状況と発芽率です。

赤のグラフが地温、青のグラフが気温です。

地温計が途中で故障したため残念ながら地温は、3月23日までのデータしかありません。

発芽率のグラフの内、赤は私、稗田のグラフ・青は相須君のグラフ・黄（もしくは緑）のグラフは宮本君のグラフです。

これは、2月29日の発芽状況です。播種後10日では、発芽数はまだ少ないです。

ところが、播種後15日目には、発芽率は80%を超えました。最終的には、全体で89%になりました。昨年度は75%だったので、大幅に向上しました。

3月9日は鉢上げを行いました。この時点で播種後20日となり、新たな発芽は確認できなかったなので、鉢上げをすることにしました。

鉢上げから9日目、3月18日の様子です。気温、地温ともに24度でした。このころになると、葉数は2～3枚確認することができました。

鉢上げから2週間後、3月23日の様子です。気温19度、地温23度、ほとんどの個体も葉数が3枚程度にまで成長しました。

鉢上げから4週間後、4月6日の様子です。気温は14度、個体間で多少の生育の差は見られますが、どの個体も順調に生育していると思われます。

鉢上げから6週間後、4月20日の様子です。気温21度、このころになると、ナスの苗の高さは26センチほどになりました。

葉数も増え、一枚一枚も大きくなりました。この二日後に鉢替えを行いました。

鉢上げから8週間後、5月4日の様子です。苗の高さは24センチほどで、苗の幅は35センチになりました。本葉は7枚を確認しました。

鉢上げから9週間後、5月13日の様子です。いよいよ、待ちに待った定植日がやってきました。

株間1，3mで定植した後、その間にオクラを植えました。

オクラを植えた理由は、オクラに寄生する害虫が、ナスに寄生する害虫を食べるからです。ナスの地際部にアルミ箔を巻きました。その理由は、害虫であるヨトウムシを予防するためです。

その効果は、約70%になるとのことです。

これらのアドバイスは稲成ナスを栽培されている榎本さんから頂きました。

5月14日、栽培農家の榎本さん宅を訪問しました。  
もやい結びを教わり、私達の質問に答えて頂きました。

私たち3人が質問した内容は、果実や種子に関する事、栽培の歴史に関する事、農薬や気象対策などに関する事です。

ご協力頂き有り難うございました。

6月7日、定植してから約3週間が経ち、ナスの誘引を行いました。V字・U字・3本仕立てにそれぞれ誘引し、V字・U字は支柱を立てて、八の字結束、3本仕立てはもやい結びを行いました。

左の畝はU字整枝法で、右の畝はV字整枝法、中畝は3本仕立て整枝法でそれぞれ測定を続けることにしました。

今年も、去年の先輩方のように、もやい結びで大変苦労しました。

6月15日、3種類のうち、U字・V字は、パイプハウスの天井部分からビニールひもで枝吊りをし、さらにV字は、幹の横に鉄パイプを打ち込みました。

その結果、このようになりました。

右の鉄パイプが刺さっているのが、V字整枝法で、左のパイプのない方がU字整枝法です。

6月15日、ついに初収穫の日がやってきました。収穫のポイントは、ツヤがあること、成人男性の握りこぶし程度の大きさであることです。

私たちは、地域へのアピール活動の手始めとして、すでに熊高市場で稲成ナスの販売を行っています。これは、販売用の稲成ナスです。一袋2~3個入りで、100円で販売しています。実際に販売すると、人気なのですぐに売り切れてしまいます。稲成ナスを購入した方からは、実がやわらかく、みずみずしいので、とてもおいしいと評判です。

今後の課題、「種の保存」と「品質の向上」を目指す。栽培方法の改善。引き続き、稲成ナスを熊高市場で販売し、地域へのアピールを行う。熊高市場以外の販売所でも稲成ナスを販売したい。オリジナルレシピの開発を行う。

プロジェクトを終えての感想は、種子選別や整枝・誘引等、去年の先輩方の方法とは異なる部分や、新たな試みもあり、昨年より作業が増えたり、複雑になったりしました。しかし、身近で栽培されていた、伝統野菜の「種の保存」に携わることができ、光栄に思いました。

これで私達の発表を終わります。